

いつ、どこで起こるかわからない災害 今から備えを始めましょう！

災害の危機が迫ってから情報を集めても、対応は手遅れになりがちです。命を守る行動の決断には適切な情報収集が必要です。

事前の情報収集



・災害ハザードマップで危険箇所を確認

自宅と指定緊急避難場所の災害リスクによって、取るべき対応は様々です。稲城市の災害ハザードマップで確認しましょう。稲城市では「いなぎ防災マップ」を各家庭に配布しています。また、市のホームページでも確認できます。

・防災情報メールサービスに登録

稲城市では、携帯電話で受け取れる防災情報メールサービスを提供しています。市（多摩南部）で発生した警報・台風情報、地震に関して、市内の観測情報や予知情報、避難情報を提供しています。稲城市のホームページで配信登録をしておくことをお勧めします。



・マスメディア・インターネットでの情報収集

主要キー局では台風進路や被害全体像の把握にとどめ、多摩テレビ等の地域密着ケーブルテレビやインターネットなどで地元の状況を把握しましょう。全国と地元の情報をバランスよく収集することが大切です。



避難指示ですぐ避難

防災情報メールなどで、1時間に30mm以上の雨が降ったという通知があれば、普段の生活を災害モードに切り替え、情報収集を始めます。そして、告知される5段階の警戒レベル3（高齢者等避難）で準備を始め、レベル4（避難指示）で避難しましょう。避難準備は早めに整えておくことが重要です。高齢者や乳幼児など、避難に時間のかかる人がいるなら、1段階前の氾濫注意情報（レベル2に相当）から支度を始め、レベル3で避難を開始しましょう。

*参考・出典：国民生活センター「くらしの豆知識」
(2021年版)

8月は台風等、水災害の被害が出やすい時です。早くから情報収集をし、準備をしていきましょう。

(消費生活センター運営協議会)



花火のやけど

消えた後の花火や、消毒液やスプレーの可燃性ガスへの引火にも注意

夏休みに入り、花火をする機会もあるかと思いますが、やけどの事故に注意が必要です。国民生活センターには、花火で遊んでいる時に起きた子どもの事故情報が、医療機関から寄せられています。

- ・「落ちていた花火の灰を触ってやけどした。指に水膨れができて痛みが出た。」(2歳)
- ・「花火をしていたところ急に熱いと言って泣き出した。足の甲にろうそくの蝋(ろう)がくっつき、肌が赤くなるやけどを負った。」(3歳)

花火やろうそくの火に触れてやけどをした事例だけでなく、溶けた蝋や、消えた花火や灰に触れてやけどした事例もみられます。花火をする際は、燃えやすいものがなく、広くて安全な場所で行い、子どもだけで遊ばせないようにしましょう。また、花火やろうそくの火が衣服の袖などに触れたり、周りの人や物に当たらないように十分に距離をとり、遊び終わったらすぐに水の入ったバケツにつけて確実に火を消しましょう。



また、新型コロナウイルス感染症対策として消毒用アルコールを使う機会が増えている昨今、消毒液使用後の引火について注意喚起がされています。冷却スプレーや殺虫剤などのスプレー缶製品に使用されている可燃性ガスへの引火についても注意が必要です。消毒用アルコールやスプレー缶製品は、火のそばで使用しない、使用してしばらくは火に近づかないようにしてください。

やけどをしてしまった時の応急手当

やけどをしてしまったら、すぐに10分以上冷やしましょう。刺激を避けるため、容器に溜めた水で冷やすか、水道水・シャワーを直接当てないようにしましょう。服の上から熱湯などがかった場合は、脱がさずに服の上から冷やしてください。なお、市販の冷却シートは、やけどの手当てには使えません。

- ・全身の広い範囲・顔面などのやけどの場合:すぐに救急車を呼びましょう。
- ・やけどの範囲が片足、片腕以上の広範囲にわたる場合:救急車を呼ぶか、至急病院を受診しましょう。
- ・やけどの範囲が手のひら以上の場合や水膨れの場合:潰さないようにして、病院を受診しましょう。(消費者庁ウェブサイトより)

クーリング・オフなど契約に関する相談は・・・

稲城市消費生活センター

相談電話 042-378-3738

月～金曜日(年末年始・祝日除く)

午前9時30分～正午、

午後1時～3時30分

